GOD WITH US

Part 11: LATER LETTERS

Message 10 – 2 Peter & Jude

Dangers Ahead

神はわれらと共に

パート 11：後の手紙

第 10 メッセージ – ペテロの手紙第二 & ユダの手紙

先の危険

はじめに

ペテロの手紙二とユダの手紙はどちらも、初期のクリスチャンにとっての「先の危険」に対処しています。偽教師が教会に潜入し、破壊的な異端と不道徳な教えを導入していた背景において、両者がこの問題に対処しなくてはならないと感じました。ペテロは、自分の人生と宣教が終わりに近づいていることを知っていたので（第二ペテロ 1:14）、彼が去った後も、残された信者たちがその教えを参照できるように書き記しておきたかったのです（第二ペテロ 1：13-15）。ペテロが記した手紙とともに、マルコによる福音書の最終的な構成について言及していた可能性があります。マルコの福音書は、ローマでのペテロの説教の記録であると言われています。これは、教会の長期的な利益のために、物事を書面で書き記しておきたいという願いについて言及した直後に、キリストの生涯における出来事について持ってきている理由を説明付けます（第二ペテロ 1：16-18）。したがって、彼の人生が終わる前に、将来の教会に利益をもたらす文学作品に大きな注意を払っていたということです。

第二ペテロ第 2 章とユダの手紙は、非常に似ています。イエスの異母兄弟であり、ヤコブの兄弟であるユダ（両者とも、処女マリアによるキリスト誕生後のマリアとヨセフの子でした）が先に手紙を書き、偽教師の危険性に対する強い警告を促した様です。ペテロは、ユダの手紙を基に、同じ危険に関する彼自身の警告を形作りました（第 2 章）。ユダは、この 1 つのテーマのみに焦点を当てていますが、第二ペテロは、更にいくつかのテーマを提示しています。この解説は、第二ペテロにより焦点を当てながら、最後にユダの手紙について簡単に解説します。

あいさつ：1：1-2

1:1 イエス・キリストの僕また使徒であるシメオン・ペテロから、わたしたちの神と救主イエス・キリストとの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を授かった人々へ。1:2 神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。（第二ペテロ 1：1，2）

ペテロは「**私たちと同じ尊い信仰を受けた**」人々に話しかけていました。 偽教師が舞台裏で働いていて、教えを腐敗させ、偽りの「信仰」（信念）を導入していたので、ここの冒頭の受取人の記述は重要です。 真の信仰は、常にキリストの義

の上に築かれます。これは、キリストに信頼（信仰、確信）を置くときに、信者に与えられます。偽教師たちは、人間の努力と宗教的儀式を通して救いを達成することに焦点を置き換え、さらに、他にも不道徳な行動を許し、その多くは他宗教に結びついていました。

神のご性質にあずかる者：1：3-4

キリストへの信仰を通して、神の恵みによって信者にもたらされた祝福について語ることから始めるところは、パウロによるエペソ人への手紙に似ています。

1:3 いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。 1:4 また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。（第二ペテロ１：３、４）

私たちは「**神のご性質にあずかる者**」とされたので、敬虔な生活を送るために必要なものはすべて与えられています。私たちの中には、神のご性質と並んで、罪深い性質があります（参照：ローマ人への手紙第 7 章とガラテヤ人への手紙第 5 章の肉と霊との戦いの説明）。しかし、キリストが私たちの内に住んでおられるので、神を喜ばせる方法で生きるために必要なものは備わっています。重要なのは、内に宿るもの、つまり神の本質をより外側で実現するために、私たちの内で働いてくださる神に協力する必要があるということです。

神性の追求：1：5-11

ピリピ人への手紙第 2 章 12,13 節で、パウロは信者たちに「**救いの達成に努めなさい**」と言っています。クリスチャン生活の中で霊的に成長することは、いつも私たちの内に宿ってくださっている神の霊（すなわち、神の性質）と「**御霊によって進**」みたいという信者の願いと勤勉さの相互の作用による成果です（ガラテヤ 5:25）。態度や行動を一切手放す、または「**古き人をその行いと一緒に脱ぎ捨て、 造り主のかたちに従って新しくされ、真の知識に至る新しき人を着る**」ために勤勉となります。**（コロサイ 3：1-17、エペソ 4：22,23）**。ペテロもここで同じ考えを教えています。ペテロはすでに、神のご性質を与えてくださる神の働きについては話し終えたので、ここでは、キリストの様なご性質を追求する私たちの働きを強調しています。 ペテロは信者たちに、神との歩みに勤勉であるように力の限りを尽くすように促すことから始めているところに注目してください。

1:5 それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、 1:6 知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、 1:7 信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を

加えなさい。 1:8 これらのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう。 1:9 これらのものを備えていない者は、盲人であり、近視の者であり、自分の以前の罪がきよめられたことを忘れている者である。 1:10 兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。（第二ペテロ１：５－１１）

徳のリスト（第二ペテロ 1：5-7）は、哲学者による一般的な教えであったので、当時の哲学者に精通していたギリシャ人の読者にはよく知られていました。しかし、クリスチャンにとって徳の高い人生は、内なる神の恵みに支えられています。これは、自力で作り出すものではなく、神と共に歩むことを学ぶときに、内に成長させてくださることを許す果実です。

ペテロは、信者たちに、キリストを知る知識において、「**怠る者、実を結ばない**」ことのないようにと促します（第二ペテ 1：8）。しかし、これはまさに、私たちがキリストとの歩みを怠り、古い生き方に陥ったときに信者たちに起こることでもあります。私たちは「盲目または近視眼的」になり、神の恵みを見失い、神が私たちに意図されている様な霊的成長と実りに達成しない場合があります。私たちが成長するためには、キリストとそのみ言に深く根ざし、繋がりを保つことを学ぶことが不可欠です。（参照：ヨハネ 15：1-9、ブドウの木のたとえ話）。イエス様との関係を強化するために、今どんなステップを踏んでおられますか？

神のみ言の重要性：1：12-21

ペテロは、書き記された神のみ言の重要性に大きな注意を払っています。初期のクリスチャンたちが、ペテロが去った後もその語った言葉を参照することができるように、本質的な教えを書き記すことに熱心でした（14 節：自分の死期が近いことを予感していた）。

1:12 それだから、あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理に堅く立ってはいるが、わたしは、これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたいのである。 1:13 わたしがこの幕屋にいる間、あなたがたに思い起させて、奮い立たせることが適当と思う。 1:14 それは、わたしたちの主イエス・キリストもわたしに示して下さったように、わたしのこの幕屋を脱ぎ去る時が間近であることを知っているからである。 1:15 わたしが世を去った後にも、これらのことを、あなたがたにいつも思い出させるように努めよう。（第二ペテロ１：１２－１５）

ペテロは、イエス様が、ガリラヤの山で変貌されたのを見た時のことを語っています（参照：マルコ 9：1-10）。なぜここで、このような言及をしたのでしょうか？それは、イエス様の生

涯の物語は、「巧みに作られた物語」（ギリシャの神話）ではないことを強調したかったからです。 イエスの生涯の物語は、イエス様と弟子たちが実際に詳細な知識を伴う方法で参加した、実際に起こった歴史的事実でした。

1:16 わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。 1:17 イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。 1:18 わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである。（第二ペテロ１：１６－１８）

変貌山で、3 人の弟子、ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、主イエスの変貌の様子を目撃しました。モーセとエリヤがイエス様と一緒におられるのを見たとき（おそらくタボル山）、ペテロは、3 人共、同等に重要であるかの様に対処しようとしました。その時、イエス様について言われた神のみ声、（**「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」**）を強調しています。父なる神は、ペテロの誤解を正し、イエスだけが礼拝に値する、耳を傾けるべき正当な「息子」であることをペテロが理解していることを確認されました（マルコ 9：2-9; マタイ 17：1-8; ルカ 9：28-36）。

当時、ペテロがイエス様をモーセやエリヤと同等に位置づけしたいと思ったのと同じ様に、21 世紀にも、多くの人がイエス様を「神」よりも劣っていると見なし、他の宗教創設者たちと同等な立場に位置づけています。 ここのパウロの記述は、神の子に対する、父なる神の見方を示しています。 福音書のイエスの変貌の物語を読んでください。 これがペテロの手紙第二の中で、いかに再度語られているかを研究してください。 聖書が、神の子キリスト、イエス、そのみ言は、あらゆる人の言葉を超期すると宣言しているお方について、探求してください。 父なる神の声によって、御子が証明されました。「父なる神の御声を聞き入れましょう！」

第二ペテロ 1 章 16-18 節は、イエスの生涯の歴史的な物語の信頼性を理解するために重要な箇所です。リベラルな学者たちは、イエスの生涯における奇跡的な出来事の数々は、実際には起こらなかった、むしろ、それらは初期のクリスチャンたちがイエスを神であるかの様に見せかけるために作り出した神話であると長い間示唆してきました。キリスト教は、ギリシャやローマの神々や女神を取り巻く神話や伝説に満ちていた世界で生まれたのは事実です。しかしペテロは、イエスの生涯の歴史的事実をその様な神話と区別していました。イエスの変貌は、確かに奇跡的な出来事／物語と見なされます。しかし、ペテロ自身とその仲間がその出来事を直接見聞きしたという事実に固執していました。彼らは目撃者であ

り、その証言は、信頼できるものでした。彼らは神話ではなく、実話を語っていました。

しかしペテロが、その奇跡的な出来事の目撃者であることよりも、より重要なのは、聖書は、著者たちを導く聖霊によって記されているので、信頼できる神のみ言であるという事実です。

1:19 こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。 1:20 聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。 1:21 なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。（第二ペテロ１：１９－２１）

聖書はどのようにして生まれたのでしょうか？著者である人々は「**聖霊に動かされた**」ので、「**神から受けて語った**」言葉と言えます。「**動かされた**」という言葉は、風によって「動かされている」船を描写すために用いられた言葉です。同様に、聖書の著者たちは、神の御霊に「**動かされ**」、神のみ言を記しました。

「**預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった**」とは、「**暗やみに輝くともしび**」です。この文脈において、「**預言の言葉**」とは、使徒たちの霊感を受けた記録によってもたらされた、キリストのより完全な啓示を指します。旧約聖書の預言者たちは、キリストの到来を預言しました（ペテロの手紙第一 1：10-12）。一方、新約聖書の預言者と使徒たちは、聖霊の導きによって、キリストの到着とその生涯を記録しました。

「**夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで**」とは、何を意味しているのでしょうか？イエス様は、ご自身について次のように宣言されました：**「わたしは輝く明けの明星である」（黙示録 22:16）。「明けの明星」**である預言を真剣に受け止め、キリストが待望のメシアであり、神の子であると信じたすべての人の心に、キリストは現れて、照らしてくださいます。

生けるみことば（ヨハネ 1：1）、イエス様は、**肉体となり、わたしたちのうちに宿られ（ヨハネ 1:14）**、神を私たちに明らかにされました。預言のみ言（ペテロ第二 1：19-21）は、この世界への神による啓示を完成させます。イエス様の側近の弟子の 2 人、ペテロとヨハネは、キリストの復活と天国への昇天の後、地上生涯をかけて、1 世紀に生きる人々に、イエス様を信じるよう懇願しました。今日も彼らの証は、預言の神のみ言を通して、生き続けています。

ペテロの時代に生きる人々も、今の時代に生きる人々も、神のみ言（生けるみ言　＋　神のみ言）は、宗教的多元主義（神への道は、同様に有効な道がたくさん存在するという考え）に対抗します。 イエス・キリストは、ご自身が主張された通り、神の永遠の御子であり、神への唯一の道（ヨハネ１４：６）である方か、そうでなければ、ただの嘘つきであったか二つに一つです。 この様な排他的な真理の主張は、あらゆる世代のキリスト信者にチャレンジします。包括性を歓迎し、排他性を回避する世で、「真理」を表すことは容易ではないからです。 当時、ペテロの様に、神のみ言を支持することをいとわない人々は、しばしば、その信仰のために殉教しました。 あなたは、キリストにおいて識別され、キリストを信じるすべての人に、光といのちをもたらす真の明けの明星として、世にキリストを表示しておられるでしょうか？

偽教師の危険性：2：1-22（及び、ユダの手紙）

なぜペテロは、神のみ言に聞くことが最も重要であると、そこまで強調したのでしょうか？ 偽教師が教会に潜入していている中、信者たちに警告することによって、彼らを特定するために役立つからです。 ペテロは、ユダの短い手紙をこの章の基盤として用い、それを自身の目的と表現法に適合させたと思われます。 ペテロは、昔の預言者がいかに御霊によって神のみ言を語り、書き記すように導かれたかについて話したところでした。そして、ここで、偽預言者の存在を当時の読者たちに、また、今日の読者たちに思い出させています。

2:1 しかし、民の間に、にせ預言者が起ったことがあるが、それと同じく、あなたがたの間にも、にせ教師が現れるであろう。彼らは、滅びに至らせる異端をひそかに持ち込み、自分たちをあがなって下さった主を否定して、すみやかな滅亡を自分の身に招いている。 2:2 また、大ぜいの人が彼らの放縦を見習い、そのために、真理の道がそしりを受けるに至るのである。 2:3 彼らは、貪欲のために、甘言をもってあなたがたをあざむき、利をむさぼるであろう。彼らに対するさばきは昔から猶予なく行われ、彼らの滅亡も滞ることはない。
（第二ペテロ２：１－３）

以下の箇所は、偽教師に対する神の裁きについて強調しています。 神の義の裁きの 3 つの例示です：堕天使、ノアの世代、ソドムとゴモラ。 彼の主旨は 9,10 節にあります。

2:9 こういうわけで、主は、信心深い者を試錬の中から救い出し、また、不義な者ども、 2:10 特に、汚れた情欲におぼれ肉にしたがって歩み、また、権威ある者を軽んじる人々を罰して、さばきの日まで閉じ込めておくべきことを、よくご存じなのである。こういう人々は、大胆不敵なわがまま者であって、栄光ある者たちをそしってはばかるところがない。
（第二ペテロ２：９，１０）

偽教師の性質と行動についての詳細な説明が続きます（第二ペテロ 2：10-19）。 彼らは、権威を侮る者たちです。不道徳で淫乱な思いで満たされ、クリスチャンの中に潜在します。彼らは定まらない信者をだまし、不道徳な行動へと誘惑します。貪欲で不義の報酬を愛します。彼らは偽預言者バラムの道をたどります（参照：民数記 22 章を参照）。 彼らは腐敗の奴隷で、傲慢で虚栄心が強く、実質がありません。ペテロ は、これらの偽教師の最終的な評価について述べます：

2:20 彼らが、主また救主なるイエス・キリストを知ることにより、この世の汚れからのがれた後、またそれに巻き込まれて征服されるならば、彼らの後の状態は初めよりも、もっと悪くなる。 2:21 義の道を心得ていながら、自分に授けられた聖なる戒めにそむくよりは、むしろ義の道を知らなかった方がよい。 2:22 ことわざに、「犬は自分の吐いた物に帰り、豚は洗われても、また、どろの中にころがって行く」とあるが、彼らの身に起ったことは、そのとおりである。
（第二ペテロ２：２０－２２）

一見、これらの偽教師たちは、一時的に、真のクリスチャンであり、その後「救いを失った」ことを教えている様に聞こえるという点で、ここは難解な箇所です。しかし、これを理解するための鍵は、ユダの平行した節にあります。ユダの手紙 19 節に、彼らは「**御霊を持っていない**」のですとあります。したがって、これらの偽教師たちが、神に実際に生かされ、御霊が住まわれたことは、決してありませんでした。彼らは、信者の共同体に混入して関わりながら、最初は世の腐敗の一部を免れた人々ではありましたが、時が経つにつれて、方向転換し、地方教会で卓越した権力の地位に同時に上昇しながらも、コースから外れ始めました。しかし、最終的には、彼らは「本性」を明らかにし、不道徳な生活に戻っていきます。したがって、二つのことわざ：**「犬は自分の吐いた物にかえり、豚は洗われても、また、どろの中にころがって行く」**（彼らの性質は決して「神性」に満たされていなかった、つまり、最初から救われていなかったということです。）

来たる主の日：3：1-18

4 つめであり、最後のテーマは、「主の日」の最終的な到来の確実性（すべての終わりと地上での神の支配の確立）に関するものです。繰り返しになりますが、偽教師らや嘲る者らは、キリストの初臨の事実（第 1 章）を否定するだけでなく、その再臨の教理（第 3 章）も否定します。

3:3 まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、 3:4「主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない」と言うであろう。 3:5 すなわち、彼らはこのことを認めようとはしない。古い昔に天が存在

し、地は神の言によって、水がもとになり、また、水によって成ったのであるが、 3:6 その時の世界は、御言により水でおおわれて滅んでしまった。 3:7 しかし、今の天と地とは、同じ御言によって保存され、不信仰な人々がさばかれ、滅ぼさるべき日に火で焼かれる時まで、そのまま保たれているのである。3:8 愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。 3:9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。
（第二ペテロ３：３－９）

1 世紀のクリスチャンは、キリストの再臨が彼らの生きているうちに起こるかもしれないという期待を持って生きました。年月が経過し、第一世代の信者たちが死んでいき、疑問が生じました。キリストは、本当に戻ってこられるのでしょうか？ それとも、私たちは再臨に関する教えを誤解しているのでしょうか？ 嘲る者たちは、信者たちが「キリストの再臨」に誤った希望を持っていると強調し愚か者だと嘲笑したことでしょう。ペテロは、キリストの再臨が「遅れ」ているかの様に見える唯一の理由は、一人でも多くの人々が神を知るようになるのを待っておられる神の忍耐であると明言しています。 次に、ペテロは「主の日」が人類にどれほど迅速かつ力強くやってくるかを説明します。

3:10 しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。 3:11 このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、 3:12 極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう。 3:13 しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。
（第二ペテロ３：１０－１３）

上記の文の構造に注意してください：

1. **天は大音響をたてて消え去り**ます。
2. **天体は焼けてくずれ**ます 。
3. **地と地にある働きは全て焼きつくされ**ます。

この日の到来を熱心に待ち望み、それに照らして生きましょう！

1. **天は、やがて火によって焼かれる。**
2. **万象は焼けてくずれさり**ます。
3. **新しい天と新しい地**が現れます。

文の構造は、主の日の最終的な到来（キリストの再臨）の確実性に照らして、準備して待ち望む姿勢に重点を置いています。14,15 節は、この姿勢を上手に要約しています。

3:14 愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。 3:15 また、わたしたちの主の寛容は救のためであると思いなさい。このことは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、彼に与えられた知恵によって、あなたがたに書きおくったとおりである。
（第二ペテロ３：１４，１５）

イエス様ご自身が再臨について教えられたとき、いつも「差し迫った」という考え、つまり「いつでも」戻ることができ、その結果、彼の民は「常に準備ができている」必要があるという考えを含まれました。この様に、1 世紀の信者たちは、今日の私たちと同じ様に、キリストがすぐに戻って来られることを期待して生きていました。同時に、神の忍耐についてのこれらの節は、神が再臨をさらに長く遅らされるかもしれないことを私たちに思わせるでしょう。ユダヤ国家の父であるアブラハムの時代からキリストの時代まで、2000 年以上が経過したという現実も思わせます。旧約聖書の人々は、キリストの到来が何世紀にもわたって預言されていたにもかかわらず、キリストの初臨まで、長い間待ちました。同様に、私たちは約束されたキリストの再臨を 2000 年以上待ってきました。しかし、必ずいつかキリストは再び来られます。あなたは彼の再臨を待ち望んでおられますか？それまでに準備は整いますか？まだ信じるために時間を要する人々を待っておられる「神の忍耐」の強調は、愛する人たちのために祈るように、あなたを励ましますか？

使徒の教えを歪めようとする偽教師に関する警告の最後の記述で、ペテロは、（この時点ですでに流通していた）使徒パウロの書物についてコメントしています。ペテロは、パウロの書物を**「聖書の他の箇所」（16 節）**と同等に位置づけています。これは、1 世紀のクリスチャンが使徒たちによる特定の手紙を霊感を受けた神のみ言として、すでに認識していたことを示しています。

3:16 彼は、どの手紙にもこれらのことを述べている。その手紙の中には、ところどころ、わかりにくい箇所もあって、無学で心の定まらない者たちは、ほかの聖書についてもしているように、無理な解釈をほどこして、自分の滅亡を招いている。 3:17 愛する者たちよ。それだから、あなたがたはかねてから心がけているように、非道の者の惑わしに誘い込まれて、あなたがた自身の確信を失うことのないように心がけなさい。 3:18 そして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。栄光が、今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アァメン。（第二ペテロ３：１６－１８）

手紙の多くは、パウロの手紙と同様に難解であるので、「パウロの文章は、難解である」というペテロのコメントは少しこっけいです。しかし、パウロの上に神からの知恵が注がれていることを認めているペテロの敬意を知ることができます。

ユダに関する簡単な覚書き

ユダ（Juda／Judas）は、使徒ヤコブの兄弟であり、イエスの異父兄弟でした。「**6:3 この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。」（マルコ 6：3）**。ユダは、かつてイエスがガリラヤとユダヤの地域全体で説教し、癒し、教えていたときに、イエスを信じていなかった家族の一員でした（ヨハネ 7：1-10）。イエスの死、復活、昇天の後、彼は従者となり、「**イエス・キリストの僕**」となりました（ユダ 1 節）。イエスとのユダ自身の人生経験から、イエスが真に神の子であると人々が信じることがいかに難しいことかを知っていました。彼はイエスと一緒に生活し、33 年間彼を見てきました。それでも、完全に理解するまでは、この手紙で描写されている偽教師の様に、キリストとそのみ言の信頼性を否定し、真実であることを否定しました！

ユダの手紙は、ペテロの手紙第二と同様に、教会に潜入している偽教師を背景に記されました。最初にユダの目的を述べています：

1:3 愛する者たちよ。わたしたちが共にあずかっている救について、あなたがたに書きおくりたいと心から願っていたので、聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰のために戦うことを勧めるように、手紙をおくる必要を感じるに至った。 1:4 そのわけは、不信仰な人々がしのび込んできて、わたしたちの神の恵みを放縦な生活に変え、唯一の君であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからである。彼らは、このようなさばきを受けることに、昔から予告されているのである。（ユダの手紙１：３，４）

第二ペテロと同様に、ユダの手紙は、旧約聖書の様々な箇所（ユダの手紙 5-7）に示されている、偽りの教師に対する神の裁きに焦点を合わせています。 その手紙の中心である偽教師の性質と行動の説明は、第二ペテロよりも長く、鮮明です。その一例です：

1:12 彼らは、あなたがたの愛餐に加わるが、それを汚し、無遠慮に宴会に同席して、自分の腹を肥やしている。彼らは、いわば、風に吹きまわされる水なき雲、実らない枯れ果てて、抜き捨てられた秋の木、 1:13 自分の恥をあわにして出す

海の荒波、さまよう星である。彼らには、まっくらなやみが永久に用意されている。（ユダの手紙１：１２、１３）

またユダの手紙は、ユダ自身の議論を支えるために聖書からだけでなく、彼自身も読者もよく知り、尊重している書物からも例話を取り入れているという点で独特です。 彼は、偽教師らが天使の存在を軽率かつ傲慢に罵ることを強調するために「The Assumption of Moses」を引用し、さらに、キリストの再臨についての教えを強化するために「エノク書」を引用します。 これらの本は、他の多くの本とともに、ユダヤ人によって高く評価されていましたが、39 巻の旧約聖書の正規の書物と同等同のレベルとして考慮されていたわけではません。

また、1 節で「不信心な(ungodly)」という言葉を 4 回用いていることにも注意してください。 この文の構成は、偽教師の中心的な問題を解決するのに役立ちました。

1:15 それは、すべての者にさばきを行うためであり、また、不信心な者が、信仰を無視して犯したすべての不信心なしわざと、さらに、不信心な罪人が主にそむいて語ったすべての暴言とを責めるためである」。（ユダの手紙１：１５）

ユダの聴衆への忠告は次の通りです：

1:20 しかし、愛する者たちよ。あなたがたは、最も神聖な信仰の上に自らを築き上げ、聖霊によって祈り、 1:21 神の愛の中に自らを保ち、永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。（ユダの手紙１：２０，２１）

ユダは美しく詩的な栄光の賛歌で終わります。

1:24 あなたがたを守ってつまずかない者とし、また、その栄光のまえに傷なき者として、喜びのうちに立たせて下さるかた、 1:25 すなわち、わたしたちの救主なる唯一の神に、栄光、大能、力、権威が、わたしたちの主イエス・キリストによって、世々の初めにも、今も、また、世々限りなく、あるように、アァメン。（ユダ１：２４，２５）

ディスカッションの質問

１．第二ペテロ 1 章 3-11 節を読んでください。 神の働きとあなたの働きのバランスについて、どんな発見がありましたか？ ここで、霊的形成の過程における勤勉の必要性について何を学びますか？

２．第二ペテロ 1 章 16-21 節を読んでください。 この箇所は、霊感を受けた「神のみ言」に対するあなたの見方をどのように形作っていますか？

３．神のみ言の真理（第 1 章）と偽教師の誤り（第 2 章）の並列は、「すべての宗教的な考えや教えは、等しく有効ではないのですか？」という質問に答えるためにどのように役立ちますか。

４．ペテロがキリストの再臨の確実性（第 3 章）を強調することは、あなたにどのような影響を与えますか？